

情 報 公 開 文 書

| | |
|---------------------------------|--|
| 研究の名称 | Morbidity and mortality Conference の教育的効果についての研究 |
| 整理番号 | 臨 2 9 - 1 4 5 |
| 研究機関の名称 | 国立大学法人 富山大学 |
| 研究責任者 | 柏崎 大奈 |
| 研究の概要 | <p>【研究対象者】 2013 年 1 月から 2028 年 12 月までに富山大学附属病院脳神経外科に入院し、Morbidity and mortality conference（MMCs）で検討を行った全ての症例を対象とします。 MMCs の対象は、診療中に不利益な出来事が起こった患者さんや死亡した患者さんです。</p> <p>【研究の目的・意義】 Morbidity and Mortality Conference（以下、MMCs とします）は、臨床における患者さんの死亡ならびに、不利益な出来事について過去を振り返って検討を行うカンファレンスです。当科においても、1 年に 2 回の MMCs を開催してきました。欧米においては、MMCs への参加が教育的な観点から義務付けられています。当科においての、MMCs が臨床上での死亡や不利益な出来事の減少に寄与しているか、もしくは研修医への教育にどのように寄与しているかを調査します。この結果により、今後の MMCs の方法を検討し変更することにより将来の患者さんの利益につなげることが可能です。</p> <p>【研究の方法】 MMCs は過去の死亡や不利益な出来事を避けることが可能かどうか検討します。検討を行う際に、過去のカルテからの情報を抽出して検討を行います。また、最善の対処方法を検討することにより日々の臨床に還元します。その結果、この MMCs が死亡や非利益な出来事を減少することができるかどうかを研究します。</p> <p>【研究期間】 承認日から 2028 年 12 月まで</p> <p>【研究結果の公表の方法】 脳神経外科を扱う英文雑誌へ論文として報告します。</p> |
| 研究に用いる試料・情報の項目と利用方法（他機関への提供の有無） | <p>本研究で得られた情報を他機関へ提供することはありません。</p> <p>研究に用いる情報</p> <p>①研究期間内の当科での全入院患者数と手術数</p> <p>②MMCs で取り上げた不利益な出来事と死亡は避けることができたものであったか</p> <p>③MMCs で取り上げた不利益な出来事と死亡にもっとも関与した医師の経験（脳神経外科専門医か脳神経外科非専門医か）</p> <p>①、②、③をまとめ統計解析をおこないます。</p> |
| 研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名 | 富山大学医学部脳神経外科 柏崎大奈 |
| 研究資料の開示 | 研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示 |

| | |
|-------------------------------|---|
| | いたします。 |
| 試料・情報の管理責任者（研究主機関における研究責任者氏名） | 富山大学脳神経外科 助教 柏崎大奈 |
| 研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口 | <p>研究対象者からの除外を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。</p> <p>電話 076-434-7348</p> <p>FAX 076-434-5034</p> <p>E-mail dkashiwa@med.u-toyama.ac.jp</p> <p>担当者 脳神経外科 柏崎大奈</p> |